국외출장 결과보고서

일본 인구학회 학술대회 발표 및 참석

2018. 7

KIHASA 한국보건사회연구원
Korea Institute for Health and Social Affairs

1 출장 개요

□ **출장목적**

○ 2018년 제70차 일본 인구학회 학술대회 발표 및 참석

□ **과제명**

○ [지원18-001-00]연구기획

□ **출장기간**

○ 2018.6.1.(금)~2018.6.4.(월) (3박4일)

□ **출장지역**

○ 일본 치바현 메이카이 대학

□ **출장자**

○ 조성호 부연구위원

□ **일정**

출장일		행선지	방문기관	세부활동내역
1일차	2018.6.1.(금)	일본 치바현		이동
2일차	2018.6.2.(토)	치바현 메이카이 대학		학술대회 발표 및 참석
3일차	2018.6.3.(일)	치바현 메이카이 대학		학술대회 참석
4일차	2018.6.4.(월)	일본-한국		이동

2 세부 내용

○ 제70회 일본 인구학회 학술대회 발표 및 참석

1일차 2018년 6월 2일(토)	
9:30 ~ 12:30 기획세션1 2501호	
若年層の経済的な自立と家族形成に関する日韓比較セッション 청년층의 경제적 자립과 가족형성에 관한 한일 비교 세션	
渡辺雄一（日本貿易振興機構アジア経済研究所）·曺成虎（韓国保健社会研究院) 와타나베 유이치(일본무역진흥기구 아시아경제연구소)·조성호(한국보건사회연구원)	日韓若年層の経済的自立と家族形成の状況 한일 청년층의 경제적 자립과 가족형성 현황
曺成虎（韓国保健社会研究院) 조성호(한국보건사회연구원)	若年層の経済的自立と異性交際の日韓比較分析 청년층의 경제적 자립과 이성교제의 한일비교분석
菅桂太（日本国立社会保障·人口問題研究所）·曺成虎（韓国保健社会研究院) 스가 케이타(일본국립사회보장·인구문제연구소)·조성호(한국보건사회연구원)	地域差を考慮した若年層の自立と初婚タイミングの日韓比較 지역차를 고려한 청년층의 자립과 초혼시기의 한일 비교
四方理人（関西学院大学）·曺成虎（韓国保健社会研究院) 시카타 나오토(관서학원대학)·조성호(한국보건사회연구원)	青年層の家族形成と所得格差の日韓比較−親同居シングルの動向 청년층의 가족형성과 소득격차의 한일비교−부모동거 미혼의 동향)

<발표자료 1>

IDE-JETRO Institute of Developing Economies, JETRO

日韓若年層の経済的自立と家族形成の状況

渡邉雄一（ジェトロ・アジア経済研究所）
曺成虎（韓国保健社会研究院）

日本人口学会第70回大会
2018年6月2日（土）

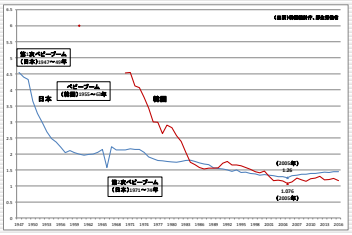
IDE-JETRO Institute of Developing Economies, JETRO

はじめに

- 日韓における少子化の進行（晩婚化や生涯未婚率の上昇，経済的な負担増などに伴う合計特殊出生率の低下・低迷）
- 日本では1990年代以降，景気低迷や雇用環境の悪化によって経済的自立や世帯独立を行わない未婚若年層の増加（フリーター，ニート，パラサイト・シングル）
- 韓国でもアジア通貨危機以降，雇用情勢の悪化による若年層の就業難，高学歴化に伴う労働市場への参入と経済的自立の遅れ（カンガルー族の誕生）
- 日韓若年層の経済的自立（就業と離家）と家族形成（結婚）の状況について，マクロデータなどから概観して両国の共通点や違いを考察

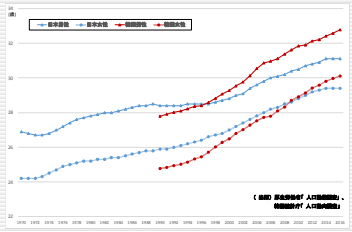
IDE-JETRO Institute of Developing Economies, JETRO

日韓の合計特殊出生率



IDE-JETRO Institute of Developing Economies, JETRO

日韓の平均初婚年齢



IDE-JETRO Institute of Developing Economies, JETRO

日韓の若者論と「世代」の変化

【日本】

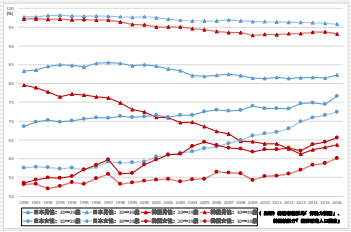
- 90年代以降の労働論への転回（フリーターや非正規雇用），「パラサイト・シングル」論の変化（山田 1999;2004）
- 近年では若者の現状への幸福感や身近な人間関係のあり方に注目（古市 2011），電子メディアに媒介された親密なコミュニケーションの展開

【韓国】

- 1990年代後半～2000年代の韓国政治社会を牽引した386世代（終身雇用や年功序列を享受した最後の世代）
- ワーキングプアの象徴としての88万ウォン世代（禹・朴 2009）⇒ 3放・5放・7放・N放世代，カンガルー族の誕生

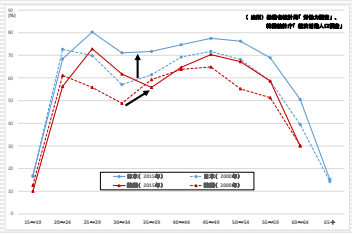
IDE-JETRO Institute of Developing Economies, JETRO

日韓若年層の男女別労働力率



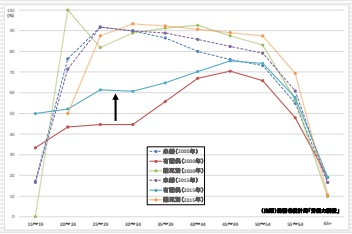
IDE-JETRO Institute of Developing Economies, JETRO

日韓女性の年齢階級別労働力率



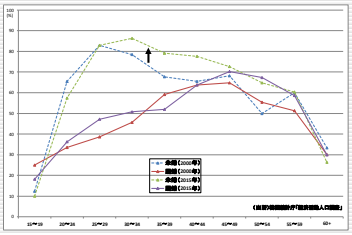
IDE-JETRO Institute of Developing Economies, JETRO

日本女性の配偶関係別・年齢階級別労働力率

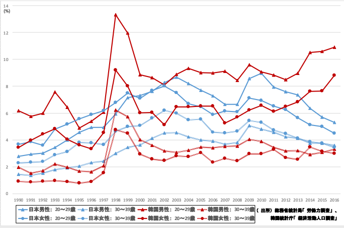


IDE-JETRO Institute of Developing Economies, JETRO

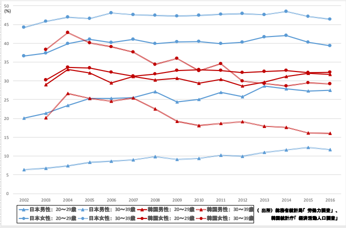
韓国女性の配偶関係別・年齢階級別労働力率



日韓若年層の男女別失業率



日韓若年層の男女別非正規職比率



学卒者の入職プロセスの特徴

【日本】

- 新卒一括採用による新卒者の早期囲い込み
- 年齢規範による参入制限，定性的評価を重視するポテンシャル採用
- 近年の売り手市場，企業規模による初任給格差小さい

【韓国】

- 定期公開採用と考試（公務員試験）が一般的（近年は中途採用やキャリア採用も増加）
- 年齢差別（新卒者と休学・既卒者の差別）の禁止，客観的指標（スペック等）に基づく選抜（有田 2017）
- 企業規模による賃金格差大，雇用需給のミスマッチ

12

日本未婚者の就労状況（%）

20〜24歳(男性)	1992	1997	2002	2005	2010	2015
正規職員	57.8	51.9	40.6	37.2	38.6	41.9
非正規職	2.7	10.0	14.6	21.9	12.3	11.4
自営業・家族従事者	2.3	4.4	3.7	3.0	2.0	1.4
無職・家事	1.6	2.8	6.4	4.8	7.4	5.3
学生	34.5	26.7	29.0	30.5	35.4	35.2
総数(人)	1,840	1,683	1,405	1,025	1,259	923

25〜29歳(男性)	1992	1997	2002	2005	2010	2015
正規職員	87.6	77.0	63.6	61.9	59.3	61.5
非正規職	1.2	5.7	12.8	17.4	19.2	17.0
自営業・家族従事者	5.9	7.6	7.7	6.5	5.9	4.3
無職・家事	2.9	3.5	7.3	8.0	9.1	9.6
学生	1.4	2.3	2.8	3.5	2.5	2.3
総数(人)	1,036	1,149	1,124	1,025	1,076	788

30〜34歳(男性)	1992	1997	2002	2005	2010	2015
正規職員	84.0	75.0	58.9	63.0	55.6	58.3
非正規職	2.0	3.6	12.2	13.0	17.4	19.7
自営業・家族従事者	8.9	12.1	10.0	11.2	8.7	6.6
無職・家事	2.4	3.2	9.4	7.9	11.2	10.1
学生	0.6	0.8	1.4	1.0	0.9	0.5
総数(人)	494	529	662	667	797	575

35〜39歳(男性)	1992	1997	2002	2005	2010	2015
正規職員	81.8	71.4	63.2	62.1	54.0	54.1
非正規職	2.8	6.6	5.6	12.4	17.1	17.2
自営業・家族従事者	10.4	12.2	10.8	12.4	9.1	11.6
無職・家事	3.1	4.2	10.5	9.2	12.9	11.1
学生	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.4
総数(人)	318	287	323	412	613	458

20〜24歳(女性)	1992	1997	2002	2005	2010	2015
正規職員	74.3	58.3	43.5	39.5	41.5	44.2
非正規職	4.2	15.0	23.3	23.9	22.4	17.7
自営業・家族従事者	1.0	1.3	1.8	1.0	0.5	0.7
無職・家事	4.3	5.0	6.5	6.1	6.5	5.6
学生	15.5	17.5	19.3	26.6	25.8	27.6
総数(人)	1,783	1,754	1,384	1,187	1,371	1,023

25〜29歳(女性)	1992	1997	2002	2005	2010	2015
正規職員	82.3	69.4	59.5	56.0	54.1	59.2
非正規職	6.4	15.2	22.4	28.9	27.6	26.7
自営業・家族従事者	1.5	3.9	3.2	2.0	2.1	2.9
無職・家事	8.4	7.5	10.4	7.7	10.1	6.8
学生	0.3	1.5	1.6	3.1	0.9	1.3
総数(人)	739	908	1,052	834	895	754

30〜34歳(女性)	1992	1997	2002	2005	2010	2015
正規職員	72.9	61.3	56.7	51.4	49.3	52.9
非正規職	9.7	16.3	23.4	31.8	29.5	28.9
自営業・家族従事者	3.6	7.6	4.4	3.0	5.2	2.9
無職・家事	12.1	10.2	11.7	10.4	11.0	11.2
学生	0.0	0.6	0.4	1.2	0.8	1.0
総数(人)	247	344	497	502	650	412

35〜39歳(女性)	1992	1997	2002	2005	2010	2015
正規職員	74.6	63.1	50.7	47.8	46.1	47.4
非正規職	5.1	13.4	18.0	30.6	31.6	29.4
自営業・家族従事者	5.1	9.4	9.5	7.1	5.6	3.7
無職・家事	11.6	10.7	12.3	9.0	12.2	13.6
学生	0.0	0.0	1.4	0.8	0.7	-
総数(人)	138	149	211	255	472	323

（出所）国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」

13

韓国未婚者の就労状況（%）

20〜24歳(男性)	1990	1995	2000	2005	2010	2015
常用勤労者	20.2	21.9	10.8	11.9	10.5	14.2
非正規職	23.8	23.4	26.2	25.7	20.7	23.6
自営業・家族従事者	6.4	4.6	4.5	2.5	2.3	2.2
失業者	5.2	4.4	6.1	5.5	3.8	5.3
学生	34.2	36.0	38.4	36.0	43.5	37.2
家事、就業・進学・結婚準備など	4.5	3.9	2.7	17.0	18.4	16.8
総数(人)	1,160,314	1,425,997	1,249,486	1,239,781	1,314,869	1,405,483

25〜29歳(男性)	1990	1995	2000	2005	2010	2015
常用勤労者	45.2	47.6	33.7	37.6	39.1	43.1
非正規職	23.5	22.8	28.7	24.8	19.5	18.4
自営業・家族従事者	10.9	8.9	8.4	6.1	5.3	4.8
失業者	6.2	4.2	7.0	6.9	6.6	8.4
学生	9.3	11.1	13.9	13.9	15.1	12.1
家事、就業・進学・結婚準備など	2.5	2.8	2.1	9.7	14.1	12.4
総数(人)	1,048,608	1,354,262	1,536,750	1,529,445	1,574,026	1,509,258

30〜34歳(男性)	1990	1995	2000	2005	2010	2015
常用勤労者	37.0	42.1	36.0	40.1	48.6	56.9
非正規職	31.3	27.4	29.9	28.1	20.5	16.5
自営業・家族従事者	18.9	17.4	17.0	12.8	9.1	10.3
失業者	3.4	3.4	7.2	5.8	6.0	4.6
学生	1.1	1.5	1.7	2.5	3.1	2.3
家事、就業・進学・結婚準備など	4.4	4.9	2.5	9.8	12.3	8.8
総数(人)	269,289	395,078	585,032	799,673	876,144	962,705

35〜39歳(男性)	1990	1995	2000	2005	2010	2015
常用勤労者	22.4	26.9	23.6	31.7	37.9	49.6
非正規職	32.6	30.3	33.1	29.7	24.8	17.4
自営業・家族従事者	24.4	24.3	24.4	17.4	15.0	13.1
失業者	5.1	3.8	7.0	5.8	5.2	5.6
学生	0.4	0.2	1.2	0.8	1.2	0.5
家事、就業・進学・結婚準備など	8.4	8.5	3.9	13.1	15.2	13.2
総数(人)	48,129	140,759	233,804	325,191	494,996	526,962

20〜24歳(女性)	1990	1995	2000	2005	2010	2015
常用勤労者	40.7	40.5	24.0	25.8	22.5	27.8
非正規職	25.3	25.3	31.2	26.7	19.7	22.2
自営業・家族従事者	3.1	2.4	2.2	2.0	1.8	2.0
失業者	3.4	3.7	4.7	5.1	4.0	5.6
学生	19.6	21.2	29.3	29.5	39.3	30.6
家事、育児、就業・進学・結婚準備	6.7	5.2	4.8	10.2	12.1	11.4
総数(人)	1,489,725	1,727,212	1,822,344	1,668,056	1,415,115	1,562,833

25〜29歳(女性)	1990	1995	2000	2005	2010	2015
常用勤労者	40.9	47.3	37.9	46.0	51.6	58.0
非正規職	27.6	25.7	33.9	28.6	21.8	15.3
自営業・家族従事者	8.4	7.8	5.4	4.5	3.1	4.4
失業者	2.3	2.3	3.6	4.2	4.1	5.3
学生	2.7	3.0	7.3	6.4	6.0	6.1
家事、育児、就業・進学・結婚準備	15.8	11.9	8.1	9.9	13.0	10.5
総数(人)	385,051	591,850	826,264	1,048,067	1,197,069	1,130,119

30〜34歳(女性)	1990	1995	2000	2005	2010	2015
常用勤労者	23.9	30.3	31.1	34.4	45.2	56.7
非正規職	29.3	25.9	31.1	28.3	22.0	17.4
自営業・家族従事者	19.7	22.8	11.4	12.4	8.9	8.7
失業者	2.1	1.0	3.4	4.5	4.0	3.6
学生	0.5	1.4	4.7	4.1	3.2	2.1
家事、育児、就業・進学・結婚準備	21.4	15.9	14.6	15.5	16.1	11.0
総数(人)	89,383	143,208	204,781	336,324	404,189	573,020

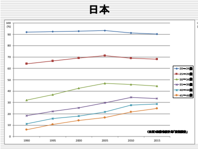
35〜39歳(女性)	1990	1995	2000	2005	2010	2015
常用勤労者	28.0	29.9	19.6	23.2	34.4	45.2
非正規職	23.9	21.3	30.7	32.4	26.6	20.4
自営業・家族従事者	25.9	32.6	12.2	15.8	13.6	9.6
失業者	1.8	1.1	1.6	4.0	3.6	3.8
学生	2.1	2.3	6.0	3.2	2.6	2.9
家事、育児、就業・進学・結婚準備	17.2	10.2	26.3	20.3	18.8	17.6
総数(人)	25,255	51,546	74,443	118,795	212,239	271,006

（出所）韓国統計庁「経済活動人口調査」個票データより作成

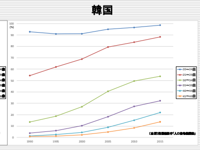
14

日韓男性の未婚率

日本



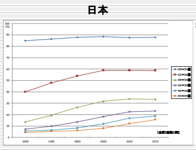
韓国



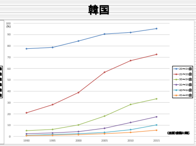
15

日韓女性の未婚率

日本



韓国



16

若年未婚者の結婚意思（日本男女）

男性(%)		1982	1987	1992	1997	2002	2005	2010	2015
総数	いずれ結婚するつもり	95.9	92.1	89.8	85.5	86.1	86.2	84.9	83.5
	一生結婚するつもりはない	2.4	4.3	5.1	6.7	5.8	7.9	10.5	14.0
	不詳	1.7	3.6	5.1	7.8	8.1	6.0	4.6	2.5
20〜24歳	いずれ結婚するつもり	97.1	92.6	90.9	86.7	88.3	87.7	88.0	88.2
	一生結婚するつもりはない	1.2	3.6	4.5	5.5	4.7	6.8	8.7	9.2
	不詳	1.7	3.8	4.6	7.7	7.0	5.5	3.3	2.6
25〜29歳	いずれ結婚するつもり	95.8	93.9	92.0	87.1	86.3	88.0	88.2	83.4
	一生結婚するつもりはない	2.9	3.6	3.2	5.5	5.3	6.9	7.7	15.0
	不詳	1.4	2.5	4.8	7.4	8.4	5.1	4.1	1.6
30〜34歳	いずれ結婚するつもり	92.4	86.9	87.0	80.9	83.8	83.7	81.9	83.3
	一生結婚するつもりはない	5.1	8.3	7.5	9.6	7.3	9.0	12.9	14.4
	不詳	2.4	4.8	5.5	9.5	8.9	7.3	5.1	2.3
35〜39歳	いずれ結婚するつもり	-	-	80.5	80.1	81.1	81.8	76.0	74.2
	一生結婚するつもりはない	-	-	11.0	12.5	9.3	10.9	16.5	21.6
	不詳	-	-	8.5	7.3	9.6	7.3	7.5	4.1

女性(%)		1982	1987	1992	1997	2002	2005	2010	2015
総数	いずれ結婚するつもり	93.9	92.7	89.4	88.4	88.0	88.6	87.4	86.9
	一生結婚するつもりはない	4.6	4.6	6.2	5.4	5.1	6.3	8.0	10.2
	不詳	1.6	2.7	4.4	6.1	6.9	5.0	4.6	2.9
20〜24歳	いずれ結婚するつもり	97.5	95.1	92.0	90.7	90.9	91.5	91.4	91.4
	一生結婚するつもりはない	1.9	2.8	3.9	4.1	3.9	4.5	5.4	6.3
	不詳	0.6	2.2	4.2	5.2	5.2	4.0	3.2	2.3
25〜29歳	いずれ結婚するつもり	92.5	91.8	89.9	87.1	87.7	91.8	89.3	88.6
	一生結婚するつもりはない	4.0	5.6	5.5	5.4	4.2	4.1	6.5	8.8
	不詳	3.5	2.6	4.6	7.5	8.0	4.1	4.2	2.7
30〜34歳	いずれ結婚するつもり	72.7	75.6	83.8	88.7	85.1	84.3	84.9	84.2
	一生結婚するつもりはない	23.6	16.9	12.6	5.5	8.5	9.2	9.3	13.1
	不詳	3.6	7.5	3.6	5.8	6.4	6.6	5.7	2.7
35〜39歳	いずれ結婚するつもり	-	-	63.0	69.1	76.8	73.3	74.2	72.4
	一生結婚するつもりはない	-	-	29.0	20.8	9.5	16.9	17.8	22.3
	不詳	-	-	8.0	10.1	13.7	9.8	8.0	5.3

（出所）国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」

17

若年未婚者の結婚意思（韓国男女）

男性(%)		2005	2009	2012	2015
総数	結婚するつもり	82.5	75.7	79.3	74.5
	しないつもり	5.6	7.6	8.5	9.9
	わからない	12.0	16.7	12.1	15.6
20〜24歳	結婚するつもり	85.7	77.1	87.4	79.5
	しないつもり	2.5	4.7	2.4	4.9
	わからない	11.8	18.2	10.2	15.6
25〜29歳	結婚するつもり	85.6	80.7	82.6	79.3
	しないつもり	4.8	5.3	4.6	6.7
	わからない	9.6	14.0	12.7	14.1
30〜34歳	結婚するつもり	80.6	80.4	80.5	74.1
	しないつもり	5.5	6.8	8.0	13.2
	わからない	13.9	12.7	11.5	12.7
35〜44歳	結婚するつもり	64.5	51.2	62.7	60.8
	しないつもり	19.1	23.7	22.7	19.8
	わからない	16.4	25.1	14.5	19.4
35〜39歳	結婚するつもり	-	-	-	65.9
	しないつもり	-	-	-	18.8
	わからない	-	-	-	15.2
40〜44歳	結婚するつもり	-	-	-	52.8
	しないつもり	-	-	-	21.4
	わからない	-	-	-	25.8

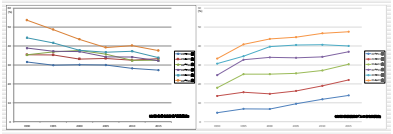
女性(%)		2005	2009	2012	2015
総数	結婚するつもり	73.8	73.1	72.4	64.7
	しないつもり	8.8	10.0	10.3	13.9
	わからない	17.4	16.9	17.3	21.5
20〜24歳	結婚するつもり	75.5	77.2	77.5	71.6
	しないつもり	7.7	5.2	5.7	6.6
	わからない	16.9	17.7	16.8	21.8
25〜29歳	結婚するつもり	76.0	77.2	77.0	74.3
	しないつもり	6.1	7.5	6.5	13.0
	わからない	17.9	15.3	16.4	12.7
30〜34歳	結婚するつもり	69.2	65.2	67.6	54.6
	しないつもり	13.1	22.2	13.2	17.7
	わからない	17.7	12.7	19.3	27.8
35〜44歳	結婚するつもり	50.0	39.5	43.8	34.5
	しないつもり	31.0	36.9	37.5	33.9
	わからない	19.0	23.4	18.7	31.5
35〜39歳	結婚するつもり	-	-	-	39.6
	しないつもり	-	-	-	27.3
	わからない	-	-	-	33.0
40〜44歳	結婚するつもり	-	-	-	25.4
	しないつもり	-	-	-	45.8
	わからない	-	-	-	28.8

（出所）保健福祉部ほか「全国結婚および出産動向調査」

18

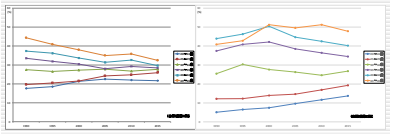
日韓男性の未婚者・独居率

日本 韓国



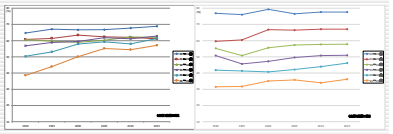
日韓女性の未婚者・独居率

日本 韓国



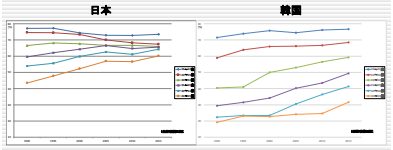
日韓男性の未婚者・親同居率

日本 韓国



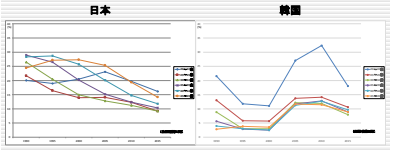
日韓女性の未婚者・親同居率

日本 韓国



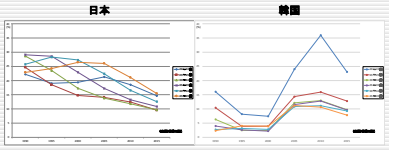
日韓男性の有配偶者・親同居率

日本 韓国



日韓女性の有配偶者・親同居率

日本 韓国



まとめ（1）

- 韓国では20代男性の労働力率の低下が著しく，今や同年代女性を下回る ⇒ 厳しい就業事情や労働市場参入の遅れ，在学・学生期間の延長を反映
- 20代男女の失業率は近年韓国では上昇，日本では下落する傾向（韓国では男女差大きい）
- 非正規職比率では同年代比較で，男性では韓国が日本よりも高く，女性では日本が韓国よりも高い。韓国では20代の男女差が小さく，30代の男女とも減少傾向
- 未婚者の就労状況は，日韓男女で30代以降に雇用状況の悪化や無職化の傾向がみられ，交際や結婚の障害になっていると考えられる

まとめ（2）

- 韓国では20代後半～30代の未婚率の急上昇が特徴的（日本では中年層の未婚率上昇が問題）
- 日韓男女の結婚意思は減少傾向（韓国女性では30代以降で特に消極的）
- 日本の若年未婚者では30代以降に進んでも離家が起こりにくい一方，韓国では30代後半以降になれば未婚者の離家が一定程度進む
- 未婚者の親同居率は日本では30代後半以降で上昇傾向，韓国女性でも30～40代で近年高まる傾向，30代以上の男女で日本は韓国よりも相当高い
- 有配偶者の親同居率は日本では減少傾向，韓国では上昇がみられた（高額な住宅費用がネック？）

参考文献

- 有田伸（2017）「新卒一括採用制度の日本的特徴とその帰結－大卒者の「入職の遅れ」は何をもたらすか？」（石田浩編『格差の連鎖と若者1 教育とキャリア』）勁草書房
- イ・サムシクほか（2015）『全国出産力および家族保健・福祉実態調査』韓国保健社会研究院
- 禹晢熏・朴権一（2009）『韓国ワーキングプア 88万ウォン世代－絶望の時代に向けた希望の経済学』明石書店
- 古市憲寿（2011）『絶望の国の幸福な若者たち』講談社
- 山田昌弘（1999）『パラサイト・シングルの時代』（ちくま新書）筑摩書房
- 山田昌弘（2004）『希望格差社会－「負け組」の絶望感が日本を引き裂く』筑摩書房

<발표자료 2>

若年層の経済的自立と異性交際の日韓比較分析

曺成虎（韓国保健社会研究院）
sungho-cho@khasa.re.kr

研究の背景及び目的

- 生涯未婚率（2015年）
  - ① 韓国：男性-10.9%、女性-5.0%（統計庁、2017）
  - ② 日本：男性-23.4%、女性-14.1%（国立社会保障・人口問題研究所、2017）
- 異性交際の割合
  - ① 韓国：男性-30.4%、女性-33.2%（韓国保健社会研究院、2012）
  - ② 日本：男性-30.2%、女性-40.9%（国立社会保障・人口問題研究所、2017）

研究の背景及び目的

- 日本と韓国：婚姻内での出産が主流
- 異性交際は結婚の前提になるもの
- 異性交際↓ ⇒ 結婚↓ ⇒ 出産↓
- 本研究は異性交際に影響を与える要因について分析をする。

先行研究

- 韓国
  - 曺（2014）：独自の調査データを用いて、異性交際の傾向を分析
  - 就業有無、所得等の要因が影響を与える。
  - 限界点：電話調査、記述的な分析に止まっている。
- 日本
  - 中村・佐藤（2010）：SSJDAのデータ*を用いて分析をしたが、「職場にいる異性の人数」や「友人つきあい」の頻度が多いほど恋人がいる確率が高く、大企業や専門・管理職であるほど恋人がいる確率が低いことを示している。（対象：20代男女）

＊SSJDA「結婚相談・結婚情報サービスに関する調査」

先行研究

- 桶川（2013）：「職場内の独身異性の人数」、「職場以外の仕事上、異性と出会う機会」、「習い事・趣味・娯楽先の異性の人数」が低いほど、恋人のみならずよく話をする異性もいない確率が低くなる。（対象：20～30代男女）
- 限界点：データがインターネット調査

データ及び分析手法

- データ
  - ① 韓国：「全国結婚及び出産動向調査」（韓国保健社会研究院、2012）
  - ② 日本：「結婚と家族に関する国際比較調査（JGGS）」（2007年、2013年）
- 分析手法：異性交際有無を従属変数にしたロジットモデル（オッズ比）

分析対象及び変数

- 分析対象：結婚していない40歳未満の男女（学生除く）
  - 経済的な要因は就業をしないと観察されないので、全体・就業者を対象に分析する。
- 変数
  - 基本的属性：年齢、学歴、親との同居有無
  - 経済的属性：所得、従業上の地位、職業、企業規模、勤務時間
  - 価値観：結婚に対する意図、家庭内の夫婦役割（男が家族を養い、女は家庭をまもるのが、みんなにとってよい；働き口が少ない時、女よりも男が就職の優先権をもつべきだ）

記述統計分析

<表1> 全体の異性交際割合

区分	男性				女性			
	韓国		日本		韓国		日本	
	あり(%)	(N, 人)	あり(%)	(N, 人)	あり(%)	(N, 人)	あり(%)	(N, 人)
	33.3	(414)	29.3	(214)	36.5	(412)	39.0	(177)

<表2> 年齢による異性交際割合

区分	男性				女性			
	韓国		日本		韓国		日本	
	あり(%)	(N, 人)	あり(%)	(N, 人)	あり(%)	(N, 人)	あり(%)	(N, 人)
25歳未満	45.8	(186)	39.1	(128)	42.5	(220)	41.6	(101)
25~29歳	39.1	(452)	27.8	(126)	41.8	(184)	44.0	(132)
30~34歳	30.8	(400)	28.3	(90)	29.5	(160)	37.5	(88)
35~39歳	14.0	(205)	15.3	(72)	20.7	(74)	20.0	(55)

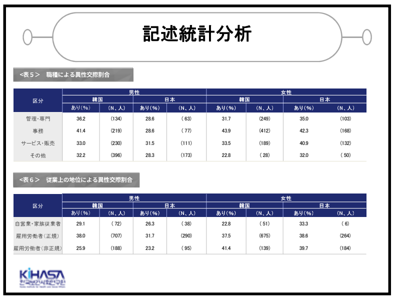
記述統計分析

<表3> 学歴による異性交際割合

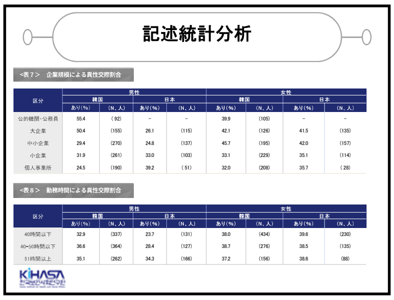
区分	男性				女性			
	韓国		日本		韓国		日本	
	あり(%)	(N, 人)	あり(%)	(N, 人)	あり(%)	(N, 人)	あり(%)	(N, 人)
高卒以下	29.2	(415)	33.3	(165)	40.0	(183)	38.9	(133)
2~3年制大学	35.0	(287)	28.9	(97)	37.2	(234)	36.7	(180)
4年制大学以上	35.5	(541)	24.4	(160)	36.7	(461)	42.0	(136)

<表4> 就業有無による異性交際割合

区分	男性				女性			
	韓国		日本		韓国		日本	
	あり(%)	(N, 人)	あり(%)	(N, 人)	あり(%)	(N, 人)	あり(%)	(N, 人)
就業者	35.0	(966)	29.2	(425)	37.5	(903)	39.0	(678)
就業無	28.4	(340)	21.1	(45)	32.4	(220)	24.0	(253)



記述統計分析



記述統計分析

記述統計分析

回帰分析結果
（韓国男性、全体）
• 結婚意図が強くなれば、交際確率↑
• 就業すると、交際確率↑
• 伝統的な価値観、交際確率↓
• 35-39歳の交際確率↓
• 学歴が低いほど、交際確率↓
• 親と同居すると、交際確率↓
＜表11－1＞ 回帰分析結果：韓国男性（全体）

回帰分析結果
（韓国男性、就業者）
• 所得が高ければ、交際確率↑
• 大企業で勤務するほど、交際確率↑
• 35-39歳の交際確率↓
• 親と同居すると、交際確率↓
＜表11－2＞ 回帰分析結果：韓国男性（就業者）

回帰分析結果
（日本男性、全体）
• 結婚意図があれば、交際確率↑
• 就業は交際確率に有意な影響なし
• 伝統的な価値観も交際確率に有意な影響なし
• 35-39歳の交際確率↓、25歳未満は交際確率↑
• 学歴が低いほど、交際確率↑
• 親との同居は、交際確率↓
＜表12－1＞ 回帰分析結果：日本男性（全体）

回帰分析結果
（日本男性、就業者）
• （正規職に比べ）自営業・家族従業者・非正規職、交際確率↓
• （中小企業に比べ）個人事業所に勤務するほど、交際確率↑
⇒ 個人事業所の男性は所得が高く、高卒に分布
• 35-39歳の交際確率↓、25歳未満は交際確率↑
• 学歴が低いほど、交際確率↑
• 親と同居すると、交際確率↓
＜表12－2＞ 回帰分析結果：日本男性（就業者）

回帰分析結果
（韓国女性、全体）
• 結婚意図が強くなれば、交際確率↑
• 就業すると、交際確率↑（10%）
• 伝統的な価値観、交際確率↓
• 30歳以上、交際確率↓
• 親と同居すると、交際確率↓
＜表13－1＞ 回帰分析結果：韓国男性（全体）

回帰分析結果
（韓国女性、就業者）
• 所得が高ければ、交際確率↑（10%）
• 非正規職であれば、交際確率↑（10%）
• 勤務時間が長いほど、交際確率↑（10%）
• 小企業に勤務するほど、交際確率↓
• 30歳以上、交際確率↓
• 親と同居すると、交際確率↓
＜表13－2＞ 回帰分析結果：韓国女性（就業者）

回帰分析結果
（日本女性、全体）

- 結婚意図があれば、交際確率↑
- 就業すると、交際確率↑
- 伝統的な価値観、交際確率↑
- 35歳以上、交際確率↓
- 親と同居は、有意な影響なし

＜表14－1＞ 回帰分析結果：日本女性（全体）

変数名	model1	model2	model3	model4
結婚意図		2.548**		
就業有無（就業＝1）			2.152*	
価値観1				1.043
価値観2				1.307**
年齢（ref. 25-29歳）				
25歳未満	0.879	0.911	0.879	0.918
30-34歳	0.679	0.913	0.671	0.673
35-39歳	0.328**	0.472#	0.322**	0.351**
学歴（ref. 4年制大学以上）				
高卒	0.994	1.346	0.991	0.928
2･3年制大学以上	0.834	0.885	0.837	0.799
親との同居（同居＝1）	0.947	0.858	0.959	0.941
2007年ダミー	1.184	1.186	1.218	1.269
定数項	0.772	0.015**	0.375*	0.312**
Observations	501	494	501	499

# p<0.1, * p<0.05, ** p<0.01
注）結果数値は odds ratioである。

回帰分析結果
（日本女性、就業者）

- 就業関連変数はすべて有意な影響なし
- 伝統的な価値観、交際確率↑
- 35歳以上、交際確率↓
- 親と同居は、有意な影響なし

＜表14－2＞ 回帰分析結果：日本女性（就業者）

変数名	model5	model6	model7	model8	model9	model10	model11	model12
所得	1.001						1.002	
職種（ref. その他）								
管理・専門		1.093				1.098	1.024	0.991
事務		1.550				1.542	1.425	1.414
サービス・販売		1.379				1.296	1.268	1.046
従業上の地位（Ref. 正規）								
自営業・家族従業者			0.750			0.927	1.017	0.898
雇用労働者（非正規）			1.074			1.092	1.279	1.136
勤務時間（ref. 40時間以下）								
40-50時間以下				0.924		0.872	0.838	0.861
51時間以上				0.898		0.923	0.943	0.960
企業規模（ref. 中小企業）								
公的機関・公務員								
大企業					0.933	0.914	0.828	0.897
小企業					0.744	0.706	0.716	0.691
個人事業所					0.746	0.787	0.866	0.803
価値観1								1.051
価値観2								1.280*
年齢（ref. 25-29歳）								
25歳未満	0.973	0.904	0.901	0.886	0.972	0.973	1.046	1.056
30-34歳	0.795	0.772	0.774	0.765	0.837	0.847	0.835	0.886
35-39歳	0.306**	0.305**	0.319**	0.312**	0.348**	0.327**	0.298**	0.349**
学歴（ref. 4年制大学以上）								
高卒	1.031	1.002	0.962	0.986	0.985	1.000	1.029	0.959
2･3年制大学以上	0.874	0.883	0.854	0.863	0.877	0.911	0.899	0.891
親との同居（同居＝1）	1.120	1.085	1.088	1.094	1.044	1.019	1.038	1.037
2007年ダミー	1.108	1.142	1.158	1.149	1.05	1.033	0.989	1.111
定数項	0.532	0.543	0.705	0.759	0.861	0.703	0.502	0.308#
Observations	447	450	451	450	431	430	427	428

# p<0.1, * p<0.05, ** p<0.01
注）結果数値は odds ratioである。

結論

- 異性交際の割合は日本男女、韓国男性が35歳を境に急速に減少するが、韓国女性は30歳から減少する。
- 経済的な変数（就業有無）は日本男性を除き、すべて有意な影響を与える。
  - 特に韓国男性は経済的な要因が異性交際に強い影響を与える。
  - しかし、日本男性は中村・佐藤（2010）のような対人関係能力等の価値観的なものが影響を与えるかもしれない。

結論

- 日本女性は就業有無以外の就業関連変数の有意性はなかった。
  - 職縁結婚が減少しているが（岩澤・三田、2005）、異性との出会えるチャンスは会社に勤めた方が多いかもしれない。
- 韓国男女は経済的な状況の改善が活発な異性交際につながると思われるが、日本男女は経済的な状況より価値観的な要因を改善する必要がある？

ご静聴ありがとうございました。

＜付表＞ 記述統計量

	韓国男性			日本男性			韓国女性			日本女性		
	Obs	平均	標準偏差	Obs	平均	標準偏差	Obs	平均	標準偏差	Obs	平均	標準偏差
所得	977	205.751	86.942	424	275.472	164.273	881	173.804	81.076	452	217.699	121.415
職種												
管理・専門		0.146	0.353		0.148	0.355		0.317	0.466		0.226	0.419
事務	995	0.254	0.436	427	0.183	0.387	903	0.442	0.497	456	0.373	0.484
サービス・販売		0.232	0.422		0.262	0.440		0.2	0.4		0.292	0.455
その他†		0.368	0.482		0.407	0.492		0.041	0.198		0.11	0.313
従業上の地位												
自営業・家族従業者		0.093	0.290		0.089	0.285		0.072	0.259		0.013	0.114
雇用労働者（正規）†	983	0.731	0.443	427	0.688	0.464	888	0.743	0.437	457	0.582	0.494
雇用労働者（非正規）		0.176	0.381		0.223	0.417		0.185	0.388		0.405	0.491
勤務時間												
40時間以下†		0.400	0.490		0.309	0.463		0.529	0.499		0.511	0.5
40-50時間以下	979	0.324	0.468	424	0.302	0.460	890	0.317	0.466	456	0.296	0.457
51時間以上		0.276	0.447		0.389	0.488		0.154	0.361		0.193	0.395
企業規模												
公的機関・公務員		0.078	0.269		–	–		0.158	0.365		–	–
大企業		0.149	0.357		0.286	0.452		0.134	0.341		0.314	0.464
中小企業†	984	0.313	0.464	409	0.337	0.473	887	0.203	0.402	437	0.359	0.48
小企業		0.253	0.435		0.252	0.435		0.263	0.44		0.263	0.441
個人事業所		0.206	0.405		0.125	0.331		0.242	0.429		0.064	0.245
就業有無（就業＝1）	1,261	0.777	0.416	473	0.905	0.294	1,162	0.777	0.416	507	0.901	0.298
結婚意図	1,257	4.589	0.946	467	3.936	0.938	1,159	4.418	1.07	499	3.992	0.957
年齢												
25歳未満		0.299	0.458		0.296	0.457		0.299	0.458		0.357	0.48
25-29歳†	1,261	0.402	0.490	473	0.294	0.456	1,162	0.402	0.49	507	0.331	0.471
30-34歳		0.209	0.407		0.241	0.428		0.209	0.407		0.193	0.395
35-39歳		0.090	0.287		0.169	0.375		0.09	0.287		0.118	0.323
学歴												
高卒		0.188	0.391		0.394	0.489		0.188	0.391		0.298	0.458
2･3年制大学以上	1,261	0.296	0.457	469	0.235	0.424	1,162	0.296	0.457	504	0.399	0.49
4年制大学以上†		0.515	0.500		0.371	0.484		0.515	0.5		0.304	0.46
価値観1	1,250	2.296	0.762	472	3.049	0.973	1,160	2.057	0.794	506	2.925	1.018
価値観2	1,250	1.975	0.753	472	2.996	1.086	1,160	1.586	0.723	505	2.836	1.114
親との同居（同居＝1）	1,261	0.639	0.480	473	0.799	0.401	1,162	0.719	0.449	507	0.848	0.359
2007年ダミー	–	–	–	473	0.567	0.496	–	–	–	507	0.663	0.473

注） †はレファレンス変数を表す。

<발표자료 3>

Population Association of Japan, The 70th Annual Meeting
9:30-12:30 Saturday, 2nd June, 2018, Room 2501
Meikai University, Urayasu, Japan

Leaving parental home and 1st marriage timing of youth in Korea and Japan

Keita SUGA*
(National Institute of Population Social Security Research)
and
Cho, Sungho**
(Korea Institute for Health and Social Affairs)
* suga-keita@ipss.go.jp, ** sungho-cho@kihasa.re.kr

1

Objectives

- We investigate whether leaving parental home (LPH, hereafter) for university and LPH for 1st employment enhanced 1st marriage timing, with using Japanese and Korean panel micro data sets.
- We focus on whether the acceleration effects were stronger for rural-born than metropolitan origins.

2

Leaving parental home and marriage

- Because of fertility differentials between rural and urban residence, rural to urban migration increases share of population of lower fertility, which reduces (macro) fertility rates of the country.
- Given the scale merit of a household production, singles living alone have incentives to save living costs by a cohabitation. Leaving parental home (LPH) gives this incentives to marriage for the never-married. Often times, migration of youth before marriage accompanied with LPH. From the view of the micro economics behavior of youth, in-migration to metropolitan area would have encouraged family formation.

3

Policy implications

- *Regional revitalization* – LPH of rural-borns are correlated with out-migration and depopulation. If 1st marriage in urban area after rural-born's LPH is delayed comparing to urban-borns, the out-migration makes declining population serious not only in rural area, but also in Japan as a whole.
- "Parasite single hypothesis"(Yamada 1999) insists increasing group of youths who live with parents after getting a job and delay their marriage in urban area. If 1st marriage of rural origins who leave parental home and move to city is earlier than 1st marriage of urban natives who stay parental home, in-migration to city has mitigated the lowering fertility.

4

Working data: Japan

- *Japanese Gender and Generation Survey*(JGGS) conducted 1st wave in 2004 for nationally representative Japanese male and female of age 18-69(1st wave respondents=9,074). JGGS conducted 1st follow-up in 2007 only for age below 50 in the 1st wave. The 2nd and 3rd follow-ups were made in 2010 and 2013 for all respondents who finished the previous wave. Additionally, supplements sample was added in 2013.
- JGGS in the 1st wave asked age of 1st marriage for all ever-married respondents. JGGS in the 2nd&4th wave(2007&2013) asked retrospectively "whether you have ever lived apart of parents more than 3 months," and "what age you leaved parental home first time."
- We make use of all available cases (6,327 cases in total): (1) 3,075 second wave respondents who were age below 50 in 2004, (2) 2,052 third wave respondents who were above age 50 in 2004, (3) 1,200 supplement sample in 2013.

5

Working data: Korea

- *Korean Youth Panel*(KYP) conducted 1st wave in 2007 for nationally representative Korean male and female of age 15-29(1st wave respondents=10,206). By every single year, KYP follow-up all respondents who completed the previous wave.
- KYP does not have retrospective questions for age of marriage and LPH. We need to identify those timing from successful follow-ups who were cohabitated with parents in the previous wave but attained independent living (and marriage) by the time of the survey.
- We analyze person years of 8,499 never-married, who cohabited with parents in 2007 and continued to participate the survey (never failed to follow-up).

6

Event history analysis

- Two types of event history analysis were applied to both of Japanese and Korean datasets, whose natures were some how different.
- *Continuous time* (Cox proportional hazard) model explains variations in the age of 1st marriage with time-invariant covariates, which is directly applicable to Japanese data.
- *Discrete time* (complementary log-log proportional hazard) model (with delayed entry) specifies series of dichotomous variables taking one when a marriage occurs at a particular age to a never-married respondent, which can easily accommodate both time invariant and time varying covariates. This model requires person-year format data, that is the panel structure of Korean data.

7

Analysis time scales

- We take two time scales for analysis time in event history analysis:
  (1) years since age of 15 (after the 2007 survey for Korean) until age at 1st marriage (or age at the last survey for the never-married).
  (2) years since graduation of the last school(after the 2007 survey for Korean) until age at 1st marriage (or age at the last survey for the never-married).
- We need incorporating *delayed entry* for Korean case, because of no retrospective information.

8

Time invariant covariates

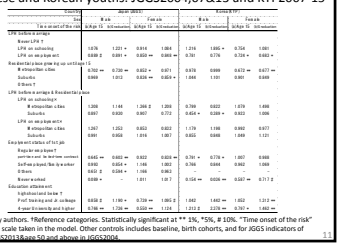
- Time invariant covariates:
  - —Indicators for leaving parental home before graduation of the last school and 1st marriage(LPH on schooling), and leaving parental home after schooling but before 1st marriage(LPH on employment).
  - —Residential place where resps spent most time while growing up until age 15 {Metropolitan city/Cities in suburbs/Rural&others}.
  - —Employment status of 1st time job {Regular/Non-regular/Self-employed}.
  - —Education attainment{Highschool/Jr.colleage/4-yr university}.
- Other controls:
  - —Birth cohorts.
  - —(JGGS) Whether results of 2013 survey, and whether age 50 and above in 2004.
  - —(Discrete time)Time elapsed after onset of the risk(baseline).

9

Dynamic covariates

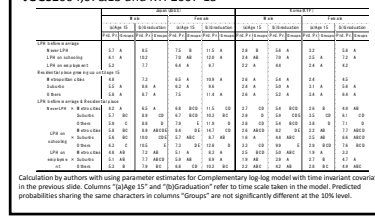
- Time varying covariates:
  - —States of LPH before marriage indicating at each age in analysis time whether subjects leave parental home on schooling/employment or continue to cohabit with parents.
  - —State of 1st employment indicating whether subjects start working(=1) or have never worked before(=0).
  - —Interaction of the state of 1st employment with the employment status of the job.
- Dynamic covariates correctly specifies subjects' risks in a manner that people, who have not yet left the parental home, are under a risk as same level as those who cohabit with parents.
- Taking education attainments as a time invariant covariate means that subjects perfectly foresee their final level at the beginning of analysis time(age 15) and analyst shifts hazard curves accordingly.

Hazard ratios estimated in Complementary log-log proportional hazard model with time invariant covariates for 1st marriage of Japanese and Korean youths: JGGS2004,07&13 and KYP2007-15



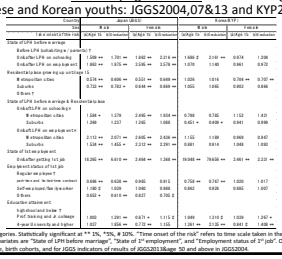
Calculation by authors. *Reference categories. Statistically significant at ** 1%, *5%, # 10%. "Time onset of the risk" refers to time scale taken in the model. Other controls includes baseline, birth cohorts, and for JGGS indicators of results of JGGS2013&age 50 and above in JGGS2004.

Predicted probabilities for LPH before marriage and residential place growing up by age 15, and their interaction by Complementary log-log model with time invariant covariates for 1st marriage of Japanese and Korean youths: JGGS2004,07&13 and KYP2007-15



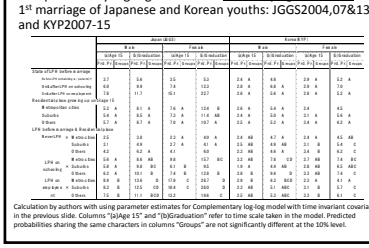
Calculation by authors with using parameter estimates for Complementary log-log model with time invariant covariates in the previous slide. Columns "(a)Age 15" and "(b)Graduation" refer to time scale taken in the model. Predicted probabilities sharing the same characters in columns "Groups" are not significantly different at the 10% level.

Hazard ratios estimated in Complementary log-log proportional hazard model with time varying covariates for 1st marriage of Japanese and Korean youths: JGGS2004,07&13 and KYP2007-15



*Reference categories. Statistically significant at ** 1%, *5%, # 10%. "Time onset of the risk" refers to time scale taken in the model. Time varying covariates are "State of LPH before marriage", "State of 1st employment", and "Employment status of 1st job". Other controls includes baseline, birth cohorts, and for JGSS indicators of results of JGSS2013&age 50 and above in JGSS2004.

Predicted probabilities for state of LPH before marriage and residential place growing up by age 15, and their interaction by Complementary log-log model with time varying covariates for 1st marriage of Japanese and Korean youths: JGGS2004,07&13 and KYP2007-15



Calculation by authors with using parameter estimates for Complementary log-log model with time invariant covariates in the previous slide. Columns "(a)Age 15" and "(b)Graduation" refer to time scale taken in the model. Predicted probabilities sharing the same characters in columns "Groups" are not significantly different at the 10% level.

Summary of results for multivariate analysis(1)

- All estimation results by continuous and discrete time models (w/ and w/o dynamic covariates) are consistent, and we found (from discrete time w/ dynamic covariates) similarities in 1st marriage determination mechanism between Japanese and Korean youths:
  (1)Getting 1st time job accelerates 1st marriage, and the sizes of increase in hazards are 5 times bigger for male than for female.
  (2)1st marriage timings of non-regular employees in their 1st job were postponed significantly only for males (but not significantly for females).
  (3)LPH on schooling makes males' 1st marriage after their graduation earlier.
  (4)Higher education rise 1st marriage after graduation. This effect is enormous particularly Koreans.

Summary of results for multivariate analysis(2)

- Continuation of cohabiting with parents(time varying) delays 1st marriage of both Japanese and Korean youths. In particular, 1st marriage hazards predicted for Japanese male and female after LPH on schooling are 1.8-2.3 times bigger than those staying with parents. The 1st marriage hazards of Japanese male and female after LPH on employment are 2.1-4.3 times bigger. For Korean, the 1st marriage hazards after LPH are 1.2-1.4 times bigger.

Summary of results for multivariate analysis(3)

- Comparing with predicted 1st marriage hazards by 9 categories consisted of combination of LPH before marriage and residential place growing up by age 15, it is the biggest for Japanese male who born in a metropolitan city and has never been LPH before marriage(time invariant). This result is consistent with "Parasite single hypothesis".
- Male's 1st marriage timings both of Japanese and Korean are earlier if born in rural area and LPH on schooling. Japanese and Korean female's 1st marriage are delayed if born in a metropolitan city and LPH on employment.

Concluding remarks

- Sensitivity analysis with another Korean dataset is desirable. It could be better if we have had retrospective information (in the 1st wave) of KYP.
- "Timing of LPH" is a prominent research issue, because it is the crucial determinant of 1st marriage (and so family formation) and regional population dynamics of both Japan and Korea.
  ∵ Residential place growing up by age 15 was statistically significant in models with (time invariant) LPH before marriage, while the significances almost disappear after controlling (time varying) state of LPH. i.e. controlling the state does not leave variations in 1st marriage by the residential place.

Working cases by age and sex: Japan

Birth cohort	Total				Male				Female			
	Total	2004 cohorts		2013	Total	2004 cohorts		2013	Total	2004 cohorts		2013
		Age<50	Age>=50	suppliment		Age<50	Age>=50	suppliment		Age<50	Age>=50	suppliment
Total	6,327	3,075	2,052	1,200	2,893	1,304	994	595	3,434	1,771	1,058	605
1934-39	485	-	485	-	248	-	248	-	237	-	237	-
1940-44	536	-	536	-	262	-	262	-	274	-	274	-
1945-49	596	-	596	-	280	-	280	-	316	-	316	-
1950-54	553	118	435	-	258	54	204	-	295	64	231	-
1955-59	636	636	-	-	277	277	-	-	359	359	-	-
1960-64	580	580	-	-	256	256	-	-	324	324	-	-
1965-69	567	567	-	-	235	235	-	-	332	332	-	-
1970-74	580	469	-	111	246	195	-	51	334	274	-	60
1975-79	657	325	-	332	297	139	-	158	360	186	-	174
1980-84	565	293	-	272	244	111	-	133	321	182	-	139
1985-95	572	87	-	485	290	37	-	253	282	50	-	232

Birth cohorts	A. The number of respondents who completed 2004 survey			B. 2004 cohort in working data			% B / A		
	Total	Male	Female	Total	Male	Female	Total	Male	Female
Total	9,074	4,265	4,809	5,127	2,298	2,829	56.5	53.9	58.8
1934-39	1,070	557	513	485	248	237	45.3	44.5	46.2
1940-44	1,045	502	543	536	262	274	51.3	52.2	50.5
1945-49	1,094	524	570	596	280	316	54.5	53.4	55.4
1950-54	1,015	495	520	553	258	295	54.5	52.1	56.7
1955-59	924	421	503	636	277	359	68.8	65.8	71.4
1960-64	876	401	475	580	256	324	66.2	63.8	68.2
1965-69	878	391	487	567	235	332	64.6	60.1	68.2
1970-74	794	358	436	469	195	274	59.1	54.5	62.8
1975-79	618	279	339	325	139	186	52.6	49.8	54.9
1980-84	597	257	340	293	111	182	49.1	43.2	53.5
1985-95	163	80	83	87	37	50	53.4	46.3	60.2

Working cases=JGGS 2nd wave respondents who were age below 50 in 2004, 3rd wave respondents who were above age 50 in 2004, and 2013 supplement sample.

Korean males and females who were never-married and cohabited with parents in 2007 and has never attrited by survey years: KYP

Age in 2007 (birth cohort)	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
Total	8,499	7,392	6,586	5,747	5,112	4,640	4,377	4,153	3,996
15-19 (1983-92)	4,149	3,646	3,227	2,718	2,313	1,973	1,794	1,661	1,574
20-24 (1983-87)	2,413	2,077	1,874	1,685	1,550	1,486	1,444	1,399	1,362
25-29 (1978-82)	1,937	1,669	1,485	1,344	1,249	1,181	1,139	1,093	1,060
Male	4,363	3,629	3,069	2,508	2,085	1,749	1,575	1,460	1,413
15-19 (1983-92)	2,171	1,806	1,462	1,071	773	500	375	308	290
20-24 (1983-87)	1,067	851	739	654	587	561	538	520	509
25-29 (1978-82)	1,125	972	868	783	725	688	662	632	614
Female	4,136	3,763	3,517	3,239	3,027	2,891	2,802	2,693	2,583
15-19 (1983-92)	1,978	1,840	1,765	1,647	1,540	1,473	1,419	1,353	1,284
20-24 (1983-87)	1,346	1,226	1,135	1,031	963	925	906	879	853
25-29 (1978-82)	812	697	617	561	524	493	477	461	446

Age in 2007 (birth cohort)	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
Total	100.0	87.0	77.5	67.6	60.1	54.6	51.5	48.9	47.0
15-19 (1983-92)	100.0	87.9	77.8	65.5	55.7	47.6	43.2	40.0	37.9
20-24 (1983-87)	100.0	86.1	77.7	69.8	64.2	61.6	59.8	58.0	56.4
25-29 (1978-82)	100.0	86.2	76.7	69.4	64.5	61.0	58.8	56.4	54.7
Male	100.0	83.2	70.3	57.5	47.8	40.1	36.1	33.5	32.4
15-19 (1983-92)	100.0	83.2	67.3	49.3	35.6	23.0	17.3	14.2	13.4
20-24 (1983-87)	100.0	79.8	69.3	61.3	55.0	52.6	50.4	48.7	47.7
25-29 (1978-82)	100.0	86.4	77.2	69.6	64.4	61.2	58.8	56.2	54.6
Female	100.0	91.0	85.0	78.3	73.2	69.9	67.7	65.1	62.5
15-19 (1983-92)	100.0	93.0	89.2	83.3	77.9	74.5	71.7	68.4	64.9
20-24 (1983-87)	100.0	91.1	84.3	76.6	71.5	68.7	67.3	65.3	63.4
25-29 (1978-82)	100.0	85.8	76.0	69.1	64.5	60.7	58.7	56.8	54.9

Descriptive analysis for continuous time modeling (1) LPH before marriage and residential place growing up until age 15: the number of cases and their distributions

Leaving parental home befoere marriage	Japan (JGGS)				Korea (KYP)			
	Total	Metropolitan city	Cities in surburbs	Rural area	Total	Metropolitan city	Cities in surburb	Rural area
Male								
Total	2,746	361	614	1,771	4,348	1,646	1,674	1,028
Never LPH	1,196	198	308	690	3,030	1,192	1,153	685
LHP total	1,550	163	306	1,081	1,318	454	521	343
LPH on schooling	648	59	112	477	647	229	240	178
LPH on employment	902	104	194	604	671	225	281	165
Female								
Total	3,258	410	791	2,057	4,119	1,557	1,658	904
Never LPH	1,850	274	538	1,038	2,739	1,132	1,108	499
LHP total	1,408	136	253	1,019	1,380	425	550	405
LPH on schooling	533	41	71	421	670	200	248	222
LPH on employment	875	95	182	598	710	225	302	183
Male								
Total	100.0	13.1	22.4	64.5	100.0	37.9	38.5	23.6
Never LPH	43.6	7.2	11.2	25.1	69.7	27.4	26.5	15.8
LHP total	56.4	5.9	11.1	39.4	30.3	10.4	12.0	7.9
LPH on schooling	23.6	2.1	4.1	17.4	14.9	5.3	5.5	4.1
LPH on employment	32.8	3.8	7.1	22.0	15.4	5.2	6.5	3.8
Female								
Total	100.0	12.6	24.3	63.1	100.0	37.8	40.3	21.9
Never LPH	56.8	8.4	16.5	31.9	66.5	27.5	26.9	12.1
LHP total	43.2	4.2	7.8	31.3	33.5	10.3	13.4	9.8
LPH on schooling	16.4	1.3	2.2	12.9	16.3	4.9	6.0	5.4
LPH on employment	26.9	2.9	5.6	18.4	17.2	5.5	7.3	4.4

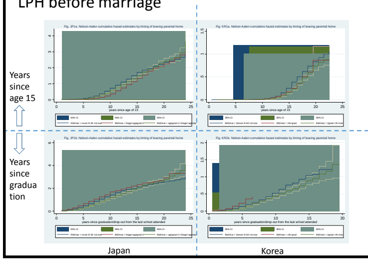
Descriptive analysis(1-2) the rate of never-married in the last survey by LPH before marriage and residential place growing up until age 15

Leaving parental home befoere marriage	Japan (JGGS)				Korea (KYP)			
	Total	Metropolitan city	Cities in surburbs	Rural area	Total	Metropolitan city	Cities in surburbs	Rural area
Male								
Total	24.4	37.7	30.9	19.4	88.1	87.5	88.2	89.0
Never LPH	31.1	43.4	39.3	23.9	90.4	90.1	90.0	91.5
LHP total	19.2	30.7	22.5	16.6	82.9	80.8	84.1	84.0
LPH on schooling	22.2	32.2	27.7	19.7	92.0	90.4	94.2	91.0
LPH on employment	17.1	29.8	19.6	14.1	74.2	71.1	75.4	76.4
Female								
Total	19.7	24.9	28.4	15.3	81.2	84.1	79.1	80.2
Never LPH	21.6	26.3	28.6	16.7	82.0	85.3	79.8	79.4
LHP total	17.3	22.1	28.1	13.9	79.7	80.9	77.6	81.2
LPH on schooling	23.5	26.8	42.3	20.0	91.2	90.5	91.9	91.0
LPH on employment	13.5	20.0	22.5	9.7	68.9	72.4	65.9	69.4

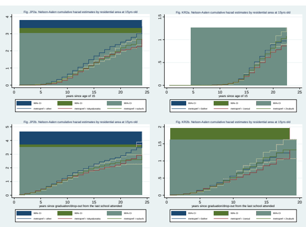
Descriptive analysis(1-3) Age at 1st marriage of ever-married by LPH before marriage and residential place growing up until age 15

Leaving parental home befoere marriage	Japan (JGGS)				Korea (KYP)			
	Total	Metropolitan city	Cities in surburbs	Rural area	Total	Metropolitan city	Cities in surburbs	Rural area
Male								
Total	27.0	27.4	27.2	26.9	30.4	30.3	30.7	30.2
Never LPH	26.4	27.4	26.6	26.1	30.2	30.0	30.4	29.9
LHP total	27.4	27.5	27.7	27.3	30.8	30.7	31.1	30.5
LPH on schooling	27.8	27.6	28.1	27.8	30.7	30.9	30.8	30.4
LPH on employment	27.1	27.4	27.5	26.9	30.8	30.7	31.2	30.6
Female								
Total	24.5	25.3	24.9	24.3	28.7	28.6	28.8	28.7
Never LPH	23.9	24.8	24.3	23.6	28.5	28.3	28.6	28.5
LHP total	25.3	26.3	26.0	25.0	29.1	29.3	29.1	29.0
LPH on schooling	25.5	25.3	26.5	25.4	27.3	27.0	26.9	28.0
LPH on employment	25.2	26.7	25.8	24.8	29.6	30.0	29.5	29.4

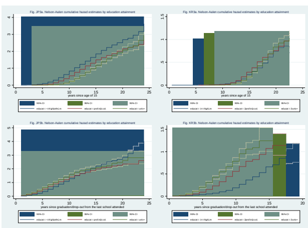
Descriptive analysis(1-4) Cumulative hazards by LPH before marriage



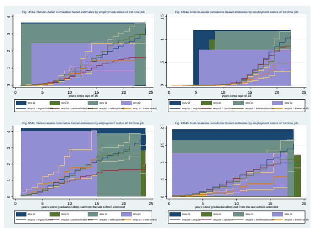
Descriptive analysis(1-5) Cumulative hazards by residential place growing up until age 15



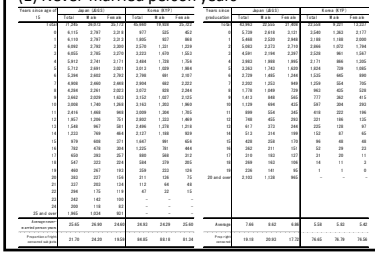
Descriptive analysis(1-6) Cumulative hazards by education attainment



Descriptive analysis(1-7) Cumulative hazards by employment status of 1st job

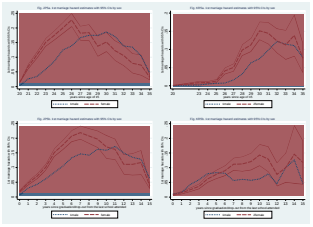


Descriptive analysis for discrete time modeling (1) Never-married person years



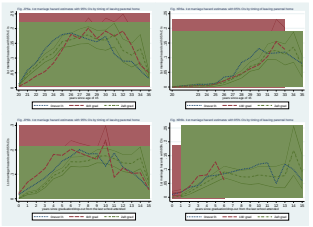
28

Descriptive analysis(2-2) 1st marriage hazards by sex (baselines)



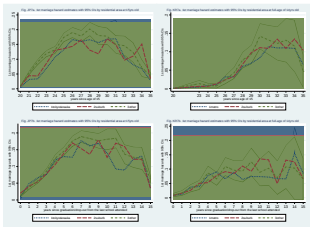
29

Descriptive analysis(2-3) 1st marriage hazards by LPH before marriage



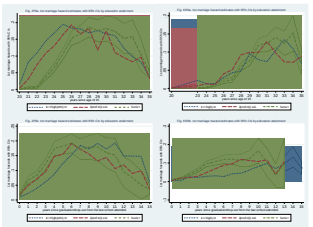
30

Descriptive analysis(2-4) 1st marriage hazards by residential place growing up until age 15



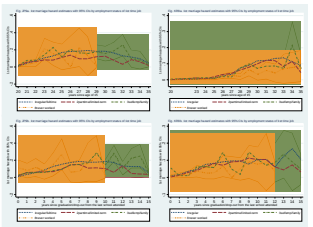
31

Descriptive analysis(2-5) 1st marriage hazards by education attainment



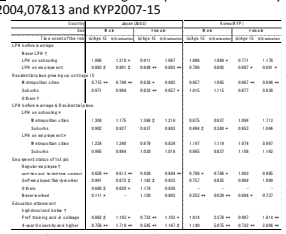
32

Descriptive analysis(2-6) 1st marriage hazards by employment status of 1st job



33

Hazard ratios by covariates estimated in Cox proportional hazard model for 1st marriage of Japanese and Korean youths: JGGS2004,07&13 and KYP2007-15



Calculation by authors. *Reference categories. Statistically significant at ** 1%, *5%, # 10%. "Time onset of the risk" refers to time scale taken in the model. Other controls includes birth cohorts, and for JGGS indicators of results of JGGS2013 are 50 and above in JGGS2004.

34

<발표자료 4>

青年層の家族形成と所得格差の日韓比較：親同居シングルの動向

四方理人(関西学院大学)
MASATO SHIKATA(KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY)
曺成虎（韓国保健社会研究院）
Cho Sungho(Korea Institute for Health & Social Affairs)

はじめに

- 日本と韓国の家族と労働の変化
  - 三世代同居から核家族化が進む一方、成人未婚子が親と同居し続けることが多く、親同居未婚子の増加
  - 韓国でもアジア通貨危機以降、失業と非正規雇用の増加
  - ただし、日本は長期の経済停滞により親世代より若者世代が貧しくなる一方、韓国は急速な経済成長により親世代より子世代の経済力が高い可能性
- 日本でみられた「パラサイト・シングル」と同様の変化が韓国でみられるのか？
- 年齢別に家族形態ごとの所得水準と所得格差の考察

使用データ

日本
- 総務省『全国消費実態調査』
- 5年に一度の全国調査であり約5万世帯が対象
- 1994、1999、2004、2009年調査を使用

韓国
- Household Income and Expenditure Survey (HIES)
- 15000世帯を対象とした全国調査
- 2006、2008、2010、2012年調査を使用

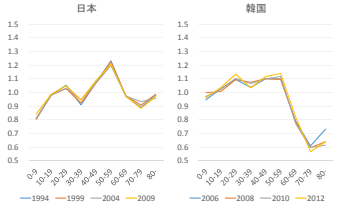
分析手法

可処分所得＝当初所得（賃金、自営収入等）
＋社会保障給付（年金、児童手当等）
－　税・社会保険料

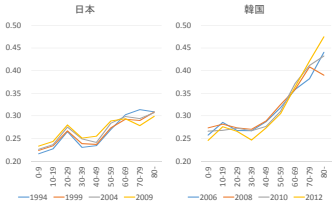
$$\text{等価可処分所得} = \frac{\text{可処分所得}}{\sqrt{\text{世帯人員数}}}$$

- 世帯の可処分所得から個人単位の等価可処分所得を算出
- 規模の経済性を考慮
- 分析単位は個人
- ジニ係数、相対等価可処分所得から分析

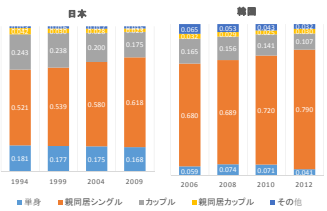
日本・韓国における年齢別相対等価化処分所得(各年の総平均＝1)



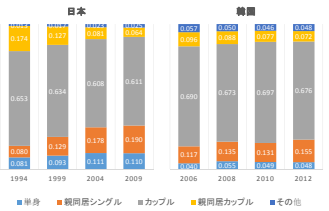
日本・韓国における年齢別等価化処分所得のジニ係数



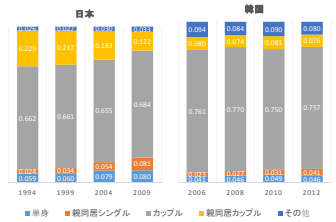
20-29歳の家族形態のシェアの変化



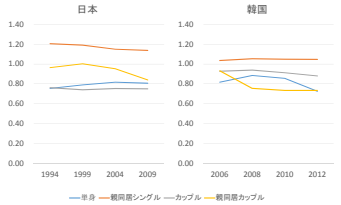
30-39歳の家族形態のシェアの変化



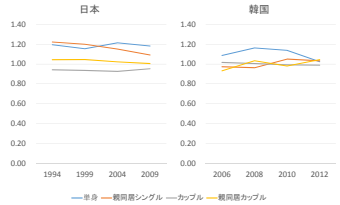
40-49歳の家族類型のシェアの変化



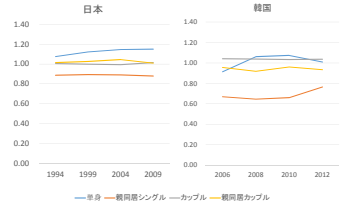
20-29歳における家族形態別相対所得（1＝年齢別平均値）



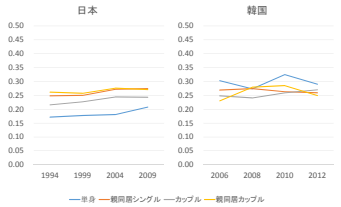
30-39歳における家族形態別相対所得（1＝年齢別平均値）



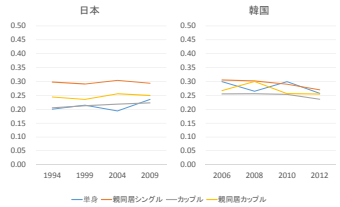
40-49歳における家族形態別相対所得（1＝年齢別平均値）



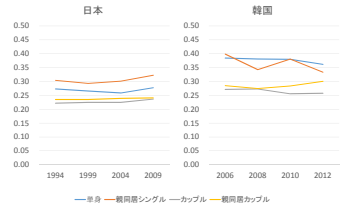
20-29歳における家族形態別ジニ係数



30-39歳における家族形態別ジニ係数



40-49歳における家族形態別ジニ係数



まとめ

年齢別格差
- 韓国では高齢者のジニ係数が非常に高い
- 日本では現役世代の格差が拡大傾向

同居の傾向
- 20代では日韓ともに親同居シングルのシェアが大きく拡大傾向
- 韓国では30代40代でカップルの割合が高いが、今後親同居シングルが高まる可能性

相対所得
- 20代の親同居シングルの相対所得は日本で高い一方、韓国では1をやや超える程度。
- 40代の親同居シングルの相対所得は日韓ともに低いが、韓国で顕著

ジニ係数
- 日本では親同居シングル内の格差が大きい
- 韓国では、40代において単身と親同居シングル内での格差が大きい

おわりに

- 日韓ともに親同居シングル割合が上昇
- 親と同居することで高い経済水準を得る「パラサイト・シングル」は20代の日本の特徴
- 韓国では急速な経済成長により相対的な親世代の収入が高くなく、特に40代で親同居が低所得となる。
- 今後、日韓ともに30代、40代で親同居シングルが増える場合、格差貧困問題が深刻化する可能性
- ただし、現状では韓国の高齢者の経済状況が深刻な問題

参考文献
- 北村行伸・坂本和靖（2007）「世代間関係から見た結婚行動」『経済研究』第58 巻第1 号, 31-46.
- 玄田有史（2007）「若年無業の経済学的再検討」『日本労働研究雑誌』No.567, 97-112.
- 宮本みち子（2012）『若者が無縁化する－仕事・福祉・コミュニティでつなぐ』ちくま新書
- 四方理人（2013）「家族・就労の変化と所得格差－本人年齢別所得格差の寄与度分解－」『季刊社会保障研究』Vol. 49 No. 3, pp.326-338
- 四方理人「世帯主年齢と本人年齢による所得格差の寄与度分解――格差拡大は人口高齢化によるものか？」『四方理人・金明雅入・田中聡一郎編著『収縮経済下の公共政策』, pp.3-26, 慶應義塾大学出版会
- Masato Shikata, Age Structure, Family Formation and Income Inequality in Japan, Trends in inequality: social, economic and political issues (International Conference on Inequality 2017), Palazzo Re Enzo – Piazza del Nettuno, Bologna, Italy, NOVEMBER 2ND -4TH 2017
- 山田昌弘（1999）『パラサイト・シングルの時代 』ちくま新書
- OECD (2009) *Growing Unequal ? :Income Distribution and Poverty in OECD Countries*, OECD Publishing
- OECD (2015) *Pensions at a Glance 2015*, OECD Publishing

謝辞
- 本報告は、JSPS科研費JP26380372,JP18K01672の研究助成を受けた成果である。また、統計法33条に基づき、総務省「就業構造基本調査」の調査票情報を利用した。現係究各位に感謝申し上げる。なお、集計結果は独自集計であり公表統計とは異なる。